

# 保健研究部

大阪市立幼稚園51園の養護教諭で構成している研究組織です。子どもたちの健やかな成長を願い、討議会や情報交換を通して資質向上に努めています

令和6・7年度 研究主題

生命(いのち)の安全教育を通して、自分の体に関心をもち  
大切にしようとする心を育む



## ★幼児期における生命の安全教育についての講演会を開催しました★

生命の安全教育の幼児を対象とした取組について学び、生命の安全教育について知識を深め、今後の実践に生かすために、令和6年9月に短期大学教職講師より、幼児期における生命の安全教育についての講演会を実施しました。

### 演題「幼児期における生命の安全教育」

#### 講演会より

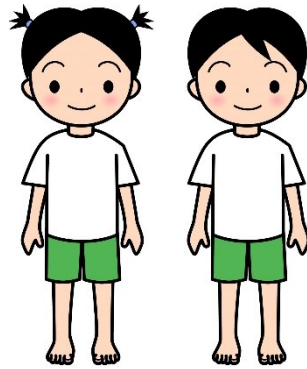
- 早期の段階から「自分も他者も大事にする気持ち」「自分の気持ちを伝える力」「困ったときに誰かに相談する相談希求力」を知ることが、将来的な性犯罪・性暴力の防止や対処につながる。また、これら3つの力の習得は、性犯罪・性暴力に限らず、いじめをはじめとした友人関係のトラブル、登校しぶり、学習困難などの子どもが抱える様々な問題を未然に防ぐことにもつながるのではないかな。
- 生命の安全教育は性に関する内容にとどまらず、心のエネルギー（元気や意欲の素）について知らせることも必要である。心のエネルギーは「困ったときに誰かに相談する相談希求力」にもつながるので、教員が「安心感を与える」「楽しさや充実感を感じさせる」「よく認め、褒める」ことを通して、幼児の心のエネルギーを充足することが大切である。
- 性犯罪や性暴力は、被害者の尊厳を著しく踏みにじる行為であり、その心身に長期にわたり重大な悪影響を及ぼすため、その根絶にむけた取組を強化していく必要があることから、令和2年6月に政府の「性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議」において、「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」が決定された。この方針を踏まえ、子どもが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう、全国の学校園において「生命の安全教育」を推進することになった。

## 講演から学んだこと

- 生命の安全教育を通して、早期の段階（幼児期）から「幼児が自分も他者も大切にする力」「自分の気持ちを伝える力」「困ったときに誰かに相談する相談希求力」を習得させることの大切さを学んだ。養護教諭として、これからの現代を生きていく幼児に伝えていかなければならない内容であると感じた。

- 生命の安全教育についてイメージをもちにくかったが、講演を聞いて、幼児の健康だけでなく、心の健康も生命の安全教育につながっていくことを学んだ。

- 幼児が困ったときに「困った」と言える相談希求力も大事だが、「困った」と言える環境づくりも大切だということに気付くことができた。



- 生命の安全教育を進めるにあたり、幼児に伝えたい内容は、幼児の発達段階や実態に合った内容や教材で行うことが大切であることを学んだ。そのためにも、日々の保育での幼児との関わりや行動観察などを通して実態の把握に努め、その実態に応じた保健指導ができるようにしていきたいと思った。

- 教育現場で使いやすいように開発された教材があることを知り、生命の安全教育には様々な取組方法があることを学んだ。幼児に向けて生命の安全教育を行うのは難しいと感じることも多いが、改めて普及・啓発の重要性を知ることができたので、今回学んだことを生かして、工夫を重ねながら実践していきたい。

今後も養護教諭の資質向上に努め、幼児が自分の体に関心をもち大切にしようとする心が育まれよう、生命の安全教育に取り組んでいきたいと思います。

